

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

上がらないなら、下がる？

<ポイント>

- ◆昨日は、米 1Q GDP は前期比年率 -0.2% と予想通りだったが、マイナス幅が小幅だったことを再確認するとドル/円は 124.38 円へ続伸した。もっとも、ユーロ圏財務相会合で早期合意期待が後退すると米中長期債利回りと共に 124 円割れへ反落した。結局、6 月 10 日の黒田総裁発言後に 124 円台半ばが天井になったことが再確認されたかたちとなった。
- ◆一方、ユーロはギリシャ関連材料に殆ど反応がなく、1.12 ドル丁度を挟んだ小動きだった。月末までに最終合意に至るというシナリオ自体は崩れていないようだ。
- ◆本日は、米コア PCE デフレーター、Fed 高官発言 (Tarullo 理事、Powell 理事) とギリシャ問題を巡るユーロ圏財務相会合再開と EU 首脳会合の開催が予定されている (明日まで)。ドル/円では出遅れているコア PCE デフレーターが更に低下しないかが注目されるが、124 円台半ばの天井感が強くなる中で、下振れた場合の下落リスクに注意が必要だ。

昨日までの世界:「黒」天井が明確化

ドル/円は、欧州時間まで 124 円丁度を挟んだ小動きに終始した後、米 1Q GDP 確報値が前期比年率 -0.2% と予想通りだったが、マイナス幅が小幅だったことが再確認できたほか、米景気のけん引役たる個人消費が $+2.1\%$ へ予想以上に上方修正されたこともあって、好感されたとみられ 124.38 円へ続伸した。もっとも、ユーロ圏財務相会合でギリシャ支援問題について前提となるギリシャの改革案が不十分とされ、早期合意期待が後退すると米中長期債利回りと共に反落、124 円を割り込んだ。22 日にギリシャが提出した改革案に対し、不十分として債権者側が対案を出したが、ギリシャが呑めない内容だったようだ。

結局、6 月 10 日の黒田総裁発言後に、米 FOMC 前の高値が 124.45 円、昨日の高値が 124.38 円と、124 円台半ばが天井になったことが再確認されたかたちとなった。

ユーロ/ドルは、結果的には 1.12 ドル丁度近辺で小動きだった。欧州時間にかけては、ユーロ圏財務相会合でのギリシャ支援問題に関する合意への期待からか 1.12 ドル台へ強含みとなった。その後、ギリシャ支援協議の物別れを受けて 1.12 ドル割れへ軟化した。とは言え、ギリシャ株式、債券などの下落は限定的で、市場参加者が抱く月末までの合意シナリオ自体は崩れていない模様で、ユーロの反応も限定的なものに留まっている。

ユーロ/円は、ユーロ/ドルと同様に欧州時間にかけて 138 円台前半から 139 円乗せへ強含みとなった後、ドル/円、ユーロ/ドルの小反落を受けて 138 円台後半へ小反落した。

豪ドル/米ドルは、0.77 ドル台半ばで上下した後、米 1Q GDP 最終推計値発表後の米ドル高を受けて、一時 0.7683 ドルへ下落した。
豪ドル/円も豪ドル/米ドルと同様の動きとなり、96 円丁度前後で推移した後、95 円台半ばへ軟化した。

きょうの高慢な偏見: 上がらないなら、下がる？

[今週の見通しはこちら\(6月19日付FX戦略ウィークリー\)](#)

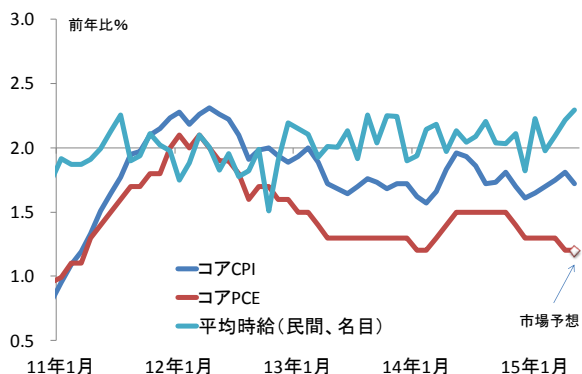
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、他の経済・インフレ指標から出遅れているコア PCE デフレーターが更に低下しないかが注目される。前月および市場予想(前年比+1.2%)を上回れば年内 2 回の利上げの可能性が高まり、再び 124 円台定着を試す展開となりそう。もっとも、124 円台半ばの「黒」天井感が更に強まる中で、市場予想を下回り鈍化する場合のドル安円高の動きが大きくなるリスクが高まっている。

ユーロ/ドルは、ここ数日のギリシャ支援問題の合意に向けた期待感の高まりにも拘らず上値が重い一方、昨日の合意遅延でも下がりず底堅さも確認されるなど、ギリシャ関連材料でも動きにくくなっている。積極的なポジションテイクが抑制されているのかもしれない。

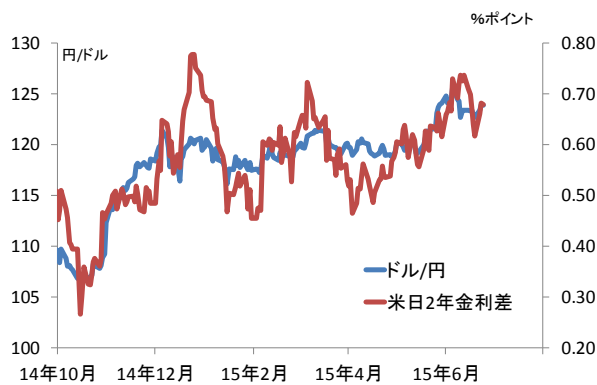
豪ドルも、対米ドルで安値圏で推移しているものの方向感がなく、本日も豪州や中国の材料がない中で、米ドル相場の動向に左右されやすい状況が続くそう。

米国のインフレ率と賃金動向



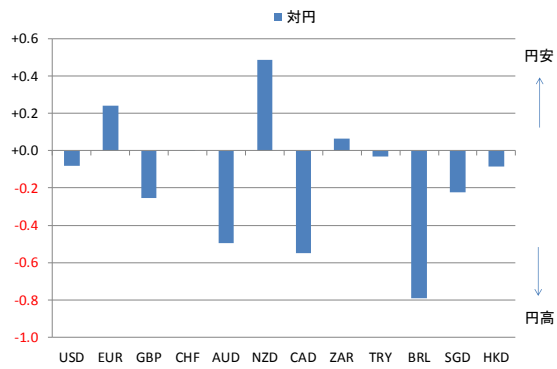
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

米日2年金利差とドル/円



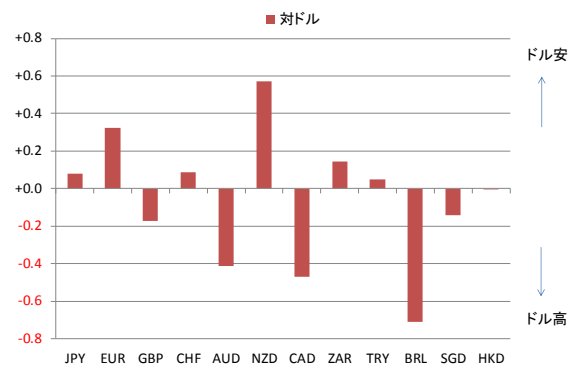
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



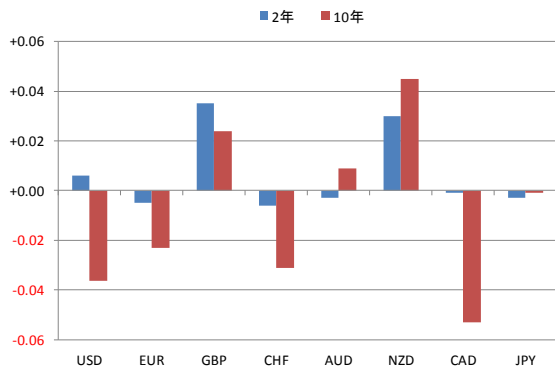
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



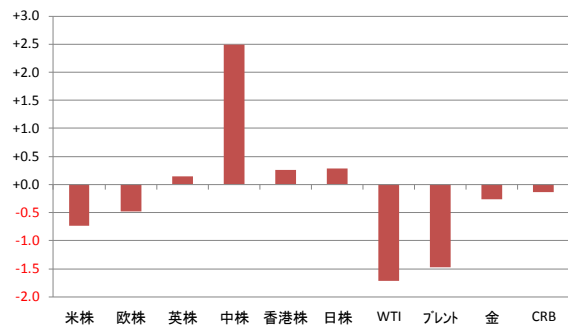
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会